



失敗しない空調省エネガイド



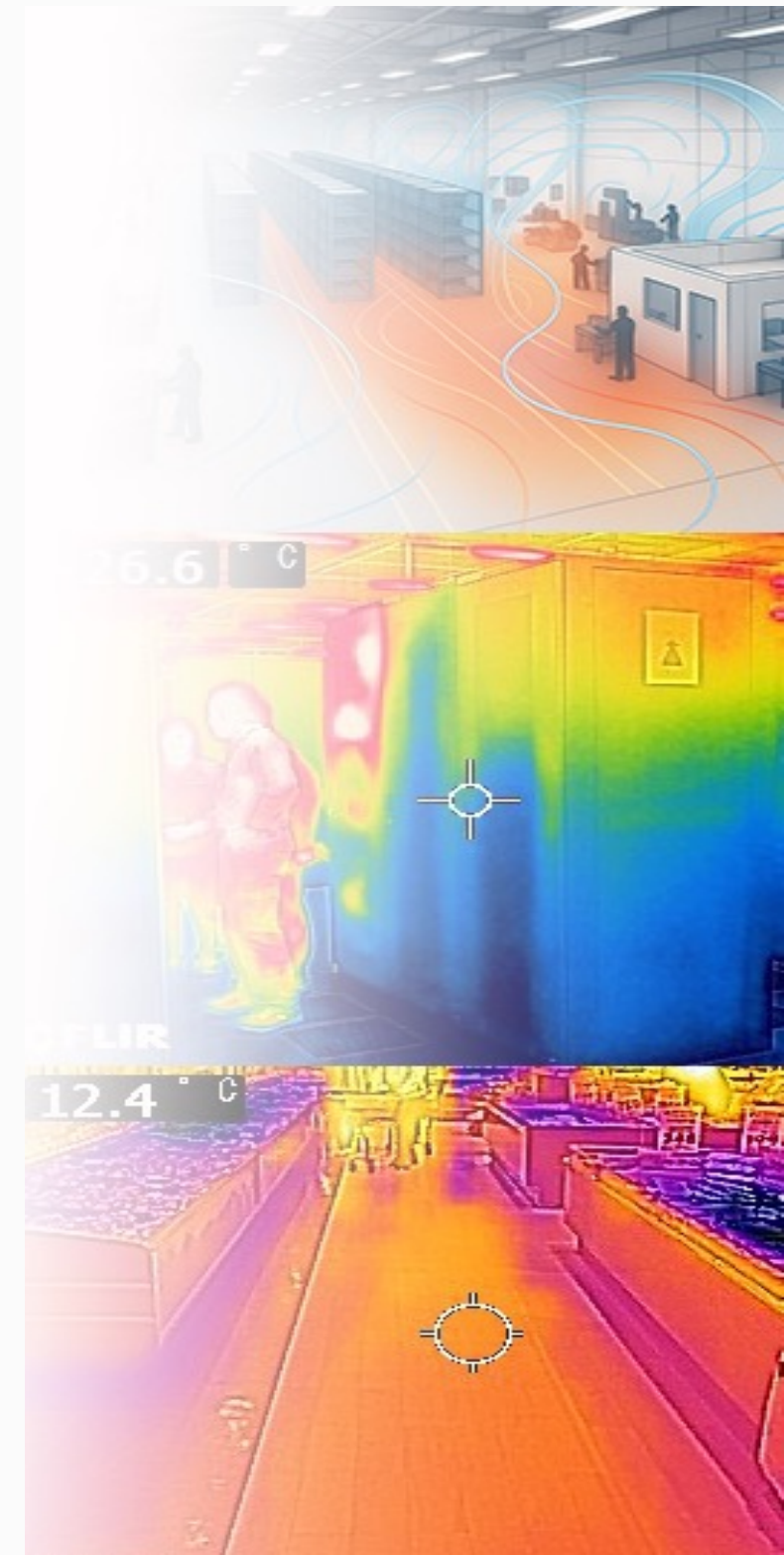
空調の省エネは「設定温度を変える」「機器を更新する」だけでは成果が安定しないことがあります。

理由は、空調が設備性能だけでなく、建物・人の動き・外気・湿度・気流などの影響を強く受ける“システム”だからです。

同じ機器でも、

- ・ 空気が届いていない場所がある
- ・ 出入口の外気侵入が多い
- ・ 湿度が高く体感温度が上がっている
- ・ センサー位置が不適切で制御が乱れている

といった条件で、電力が増えたり快適性が崩れたりします。



よくある失敗パターン(先に知っておく)

次のどれかに当てはまると、効果が出にくく、継続もしづらくなります。

失敗1

電気代だけを見て
原因を特定しない



失敗2

現場の不満(暑い/寒い)
により運用が元に戻る



失敗3

測定期間が短く、
天候・稼働差の影響を受ける



失敗4

対策が単発で、再現性
(維持の仕組み)がない



☑ 成功の共通点は「原因の特定」と「運用の再現性」です。

空調のムダは“ロス”として整理すると見つかる

空調のムダは「機器が悪い」ではなく、ロスとして現れます。

運転ロス

無駄なON/OFF、過剰運転、タイマー運用のズレ

外気ロス

出入口、換気、隙間風による負荷増

効率ロス

熱交換・冷媒・汚れ・劣化等で効率が落ちる

気流ロス

空気が届かない／滞留／短絡（吹出→吸込が近い）

体感ロス

湿度が高く不快で、設定温度を下げてしまう

ここを整理すると「何を変えれば良いか」が決まります。

まずはここだけ：現場セルフチェック（10項目）

- 店内／事務所で「暑い場所」「寒い場所」が固定化している
- 出入口付近だけ極端に暑い／寒い
- 夕方やピーク時に急に効きが悪くなる
- 風が当たる場所と当たらない場所がある
- 湿度が高く、温度を下げないと快適にならない
- 設定温度を変えても体感が変わらない
- 機器は動いているのに「効いてない」時間がある
- サーモ（室温検知）が壁際／天井付近などに偏っていそう
- 清掃・点検はしているが、電力が下がらない
- 対策しても数週間で元に戻る

3つ以上該当する場合は、単発対策より
「測定→原因特定→運用の仕組み化」
が向きます。

Step 1: 測る(現状把握)

最低限おすすめは次の3点です。

- ・ 電力(空調系統が分かる粒度)
- ・ 温度(複数地点)
- ・ 湿度(体感に直結)

Step 2: 揃える(比較の前提を合わせる)

省エネは「前後比較」が命です。

- ・ 同じ時間帯
- ・ 同じ稼働条件
- ・ できるだけ近い外気条件で比べると、効果の見誤りが減ります。



OPERATING MANUAL

Step 3: 直す(原因に合わせて最小の介入)



気流が原因

風の通り道を整える



湿度が原因

体感に合わせた運用へ



制御が原因

センサー位置・
制御ロジックを調整



劣化が原因

熱交換・冷媒・汚れ等の改善検討

OPERATING
MANUAL

Step 4: 維持する(元に戻らない仕組み)

対策後に戻る最大理由は「ルールが続かない」こと。

記録(ログ)と、簡単な運用ルール化で維持できます。

Q. 設備更新が一番確実では？

A. 更新が有効なケースもあります。ただし更新しても、気流・外気・湿度・運用が未整理だと効果が伸びないことがあります。先に原因を押さえると、更新の要否や台数の判断がしやすくなります。

Q. 湿度は見ないとダメ？

A. 体感温度に直結します。温度だけ見ていると「暑いから温度を下げる→電力が増える」のループに入りやすいです。

参考：次に何をすればいいか（目的別）

- ・ まず現状を把握したい：電力・温湿度の簡易ログ（1～2週間）
- ・ ムラを見たい：サーモ画像／温度分布の確認
- ・ 効果検証したい：前後比較の条件設計（同条件化）
- ・ 運用を続けたい：記録＋簡単な運用ルール化



空調省エネ.comでは、上記の「測定の取り方」や「比較条件の揃え方」など、判断材料の整理から相談できます。

Web

空調省エネ.com

お問い合わせ

info@heem.jp

運営

合同会社WATT（HEEM事務局）